

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 齋藤 弥代子

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

以下の二点を中核的責務と位置づけ、教育に取り組むものである。

- ・動物の視点から考え、行動できる獣医師の育成
- ・獣医神経病学（外科・内科）における自律的成長力の付与

自身の専門領域において、卒業・就業後も学び続け、自己更新を継続し得る力を、学生およびレジデントと研修医に授ける。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
小動物病院実習	獣医学科	選択	6	50
総合獣医学	獣医学科	必修	6	140
獣医学特論II	獣医学科	必修	6	3
卒業論文	獣医学科	必修	6	3
小動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	5	145
獣医外科学実習	獣医学科	必修	5	145
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	145
獣医学特論I	獣医学科	必修	5	1
獣医外科学	獣医学科	必修	4	132
基礎小動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	4	132
獣医外科学特別実験 I	獣医学専攻		1	2
獣医外科学特別実験 II	獣医学専攻		2	3
獣医外科学特別実験 III	獣医学専攻		3	1
獣医外科学特別実験 IV	獣医学専攻		4	3
獣医外科学特別演習I	獣医学専攻		1	2
獣医外科学特別演習II	獣医学専攻		2	3
獣医外科学特別演習III	獣医学専攻		3	1
動物内科看護学III	獣医保健看護学科	必修	3	70
動物臨床看護学各論III	獣医保健看護学科	必修	3	70

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

卒業後も自ら学び、成長を継続できる獣医師を育成することを目指している。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

答えを与えるのではなく、問題解決に至る考え方と方法を身につけさせる指導を重視している。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

手技や症例などの動画をLMSに掲載し、予習／復習のみならず、アクティブラーニングの一環として授業（実習）中にも使用している。具体的には、実習内容の解説時に、LMSの動画を提示し、その活用方法を示した上で、事前学習を促し、数日後の実習では、グループに分かれ、携帯やiPadなどで動画を参照しながら、実践的な手技演習を行わせている。研究室活動としては、オンラインでの打ち合わせやゼミを積極的に取り入れている。2週に1回の卒論研究ゼミ、月1回の症例検討会およびミニレクチャーなどを実施している。

(2) ICTの教育活用

有

臨床手技の動画をLMSに掲載し、それらを予習・復習のみならず、授業（実習）中にも活用している。コロナ期以降、ICT活用の機会はさらに拡大した。とりわけ、高木先生が開発したVR教材を獣医外科学実習や小動物臨床実習において利用している点は特筆すべきである。

また、研究室学生および研修医への指導として、前述の取組みに加え、症例検討会や神経疾患関連セミナーをオンラインおよび対面を組み合わせたハイブリッド形式等で開催している。さらに、学外セミナーの動画配信を学生や研修医とともに視聴するなど、ICTを用いた多様な学修機会を提供している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

単に問題を解く能力を身につけさせるだけでなく、問題を解くための「考える力」を育成する授業づくりに取り組んでいる。具体的には、考え方のプロセスや学修方法を、5年生前期の段階から体系的に指導するようにしている。その集大成として、総合獣医学においては、これらのプロセスを用いて問題を解く方法を示す解説を行うことを基本方針としている。例えば、各項目ごとに国家試験において特に重要となる内容を整理・提示し、次に当該内容がどのような形で出題されているかを示したうえで、考え方のプロセスを踏まえて学生とともに問題を解いていく。このような指導により、目前の問題が解けるようになるだけでなく、未知の課題に対しても応用可能な思考力が育成されると考えている。

(2) 学生の理解度の把握

A

少人数制でのゼミやミーティングを定期的かつ頻回に行い、一人ひとりの理解度を継続的に把握する体制を整えている。臨床の場では、思考を促すため、時間が許す限り問答形式で指導を進めている。思考過程が可視化されるため理解度の把握に有効である。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

単に問題を解く能力を身につけさせるだけでなく、問題を解くための「考える力」を育成する授業づくりに取り組んでいる。具体的には、考え方のプロセスや学修方法を、5年生前期の段階から体系的に指導するようにしている。

その集大成として、総合獣医学においては、これらのプロセスを用いて問題を解く方法を示す解説を行うことを基本方針としている。例えば、各項目ごとに国家試験において特に重要となる内容を整理・提示し、次に当該内容がどのような形で出題されているかを示したうえで、考え方のプロセスを踏まえて学生とともに問題を解いていく。

このような指導により、目前の問題が解けるようになるだけでなく、未知の課題に対しても応用可能な思考力が育成されると考えている。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

講義や実習中はその場での質問を歓迎しつつ、安易に答えを示さず、思考過程を確認しながら対話的に応答している。授業外ではメールを用いて随時質問を受け付け、必要に応じて個別面談を設定している。

(5) 双方向授業への工夫

B

単に問題を解く能力を身につけさせるだけでなく、問題を解くための「考える力」を育成する授業づくりに取り組んでいる。具体的には、考え方のプロセスや学修方法を、5年生前期の段階から体系的に指導するようにしている。その集大成として、総合獣医学においては、これらのプロセスを用いて問題を解く方法を示す解説を行うことを基本方針としている。例えば、各項目ごとに国家試験において特に重要となる内容を整理・提示し、次に当該内容がどのような形で出題されているかを示したうえで、考え方のプロセスを踏まえて学生とともに問題を解いていく。このような指導により、目前の問題が解けるようになるだけでなく、未知の課題に対しても応用可能な思考力が育成されると考えている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

総合獣医学の授業では、国家試験問題の解説を多く取り入れた。しかし、国家試験の過去問題を授業内で扱うことで、学生自身が解いて得点を把握する機会が失われるため、好ましくないとの意見も学生から聞かれた。これらを踏まえると、全体としては従来の授業形態に戻すことも一案であるかもしれない。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

例年、学生の予習・復習が十分でないとの評価が見られるため、事前学習および復習に活用できるよう、手技説明などの複数の動画教材を作成し、LMSに掲載し、学生が自主的に学修を進められる環境整備を図った。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

全て分担教科であるため、全体の状況について正確な把握は困難である。実習においては、予習を行ってきたかどうかを確認しながら指導を進めた。その結果、①の取組を導入する前と比較して、臨床手技を習得できている学生が増加した印象があり、予習に取り組む学生が増えたものと推察される。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

分担教科として大学で決まっているため変えることはできない。
予習のための手技動画教材のLMSへの掲載は続けたい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

学業そのものが学生にとって強いモチベーションとなることが望ましいと考えている。授業に関する取組は前述の内容と同様である。加えて、学生の意欲向上と成績向上を直接的に促す施策として、半期あるいは1年間を対象とした短期の特待生制度を、大学として検討することが有効であると考えている。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組 に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

全て分担教科であるため、正確な把握は困難である。

7. 指導力向上のための取組 (FD研修参加等)

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

大学の公務と重複しない限りは参加している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

短期的目標

・学生、院生、研修医に対して、現状より一段高いレベルの課題を提示し、成功体験を積み重ねられるよう支援することを目標とする。

長期的目標

・学生、院生、研修医、教職員が良い意味での「ゆとり」を持ちながら教育・研究・診療に取り組める体制を構築する。質の高い教育を提供するためには、まず教職員自身の環境整備が不可欠である。教員の負担は依然として大きく、心身の不調を来すリスクが高いと感じている。欧米の大学に見られるように、教員が教育研究に専念できる仕組みを整備することが必要であり、そのことが効率性を高め、ゆとりを生み、ひいては大学全体の発展につながると考える。

・アジア獣医内科学会の獣医神経科専門医を一人でも多く育成し、麻布大学から継続的に輩出する。将来的には、育成した専門医が次世代を育てる立場へ成長することを期待している。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

アジア獣医内科学会の獣医神経科専門医レジデントコースを、皆様のご協力のおかげで開始することができた。シラバス、LMS、小テスト、レポート課題、試験問題、教材、授業動画、セミナー動画、ICTを利用している学生たちの写真、学会賞の表彰状、アジア獣医神経科専門医の資格証